

**平成 31(2019)年度
全国学力・学習状況調査**

分析結果



下野市教育研究所

令和2年 1 月

平成 31(2019)年度全国学力・学習状況調査分析結果

令和 2年 1月
下野市教育委員会

◇ 調査について（「全国学力・学習状況調査」実施要項より一部抜粋）

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日・調査の対象

平成 31(2019)年 4月 18日（木）

【小学校】第 6 学年 【中学校】第 3 学年

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語〕

国語、算数・数学、英語はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に出題。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。

(イ) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容。

英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題。※調査問題は現行の学習指導要領（平成 20 年告示）に示された目標及び内容等に基づいて作成。

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。

- ・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
- ・部活動に関する状況
- ・ICT を活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

② 学校に対する質問紙調査

(4) その他

本調査の結果は、学力の特定の一部であること、学校における活動の一側面であることに留意し、児童生徒の全般的な学習状況への指導・改善等につなげるよう留意する。

2 本市の参加状況

調査対象内訳		下野市	全国（公立）
小学校 11校	小学校第 6 学年	504人	1、028、203人
中学校 4校	中学校第 3 学年	482人	938、888人

※ 参加人数が最も多い教科での数値

◇ 本市の結果

1 概要

(1) 下野市と全国平均正答率との比較 H21～31全体比較 ※H23、24は抽出調査

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)
- － 同じ (±1ポイント未満)
- ▽ 下回っている (1ポイント以上5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

小学校	H21	H22	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	中学校	H21	H22	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
国語A	○	○	○	▽	▽	－	○	○	○	国語A	○	○	○	○	○	○	－	○	○	
国語B	○	－	○	○	－	○	○	○	○	国語B	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	
算数A	－	○	○	－	－	－	○	○	○	数学A	◎	◎	○	○	○	○	○	○	－	
算数B	－	○	○	○	○	○	○	○	○	数学B	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○	○	
理科					○					理科					○					
※ 平成31年度よりA、B問題の区分なし。										英語										○

(2) 全体・領域別の結果 ◇下野市と県・全国平均正答率との比較

【H31全体】

〈小学校6年〉	県との比較	全国との比較	〈中学校3年〉	県との比較	全国との比較
国語	○	○	国語	○	○
算数	○	○	数学	○	○
			英語	○	○

【H31領域別】

〈小学校6年〉

国語	県との比較	全国との比較	算数	県との比較	全国との比較
話すこと・聞くこと	◎	◎	数と計算	○	○
書くこと	◎	◎	量と測定	◎	○
読むこと	○	○	図形	○	－
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	－	数量関係	○	○

〈中学校3年〉

国語	県との比較	全国との比較	数学	県との比較	全国との比較
話すこと・聞くこと	－	－	数と式	○	－
書くこと	○	○	図形	○	○
読むこと	○	○	関数	○	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	○	資料の活用	○	－
英語	県との比較	全国との比較			
聞くこと	○	○			
話すこと	公表なし	公表なし			
読むこと	○	○			
書くこと	◎	○			

2 各教科の分析結果

(1) 国語

〈小学校第6学年〉

全国平均を下回った設問

設問1 四(1)ア・イ 既習の漢字を文の中で正しく使えるか問う問題。

<p>[平均正答率] 市 39.1% 県 43.0% 全国 41.9%</p> <p>[解答類型と反応率(市)]</p> <table border="1"> <tr> <td>1 「対象」と解答しているもの(正答)</td> <td style="text-align: right;">39.1%</td> </tr> <tr> <td>2 「たい」を「対」と解答しているが、「しょう」を「照」と解答しているもの</td> <td style="text-align: right;">4.6%</td> </tr> <tr> <td>3 「対」と解答しているが、「しょう」を「象」、「照」と解答していないもの</td> <td style="text-align: right;">19.2%</td> </tr> <tr> <td>4 「たい」を「対」と解答していないが、「しょう」を「象」と解答しているもの</td> <td style="text-align: right;">3.2%</td> </tr> <tr> <td>上記以外</td> <td style="text-align: right;">26.0%</td> </tr> <tr> <td>無解答</td> <td style="text-align: right;">7.9%</td> </tr> </table>	1 「対象」と解答しているもの(正答)	39.1%	2 「たい」を「対」と解答しているが、「しょう」を「照」と解答しているもの	4.6%	3 「対」と解答しているが、「しょう」を「象」、「照」と解答していないもの	19.2%	4 「たい」を「対」と解答していないが、「しょう」を「象」と解答しているもの	3.2%	上記以外	26.0%	無解答	7.9%	<p>ア 地いきの人三十人を調査のたいしょうとして、イ 学級の友達にかぎらず多くの人に伝え、</p> <p>(1) 四 高橋さんは、【報告する文章】を書き終え、読み返しています。(略) 高橋さんは、習っている漢字がひらがなになっているところがあることに気がつき、書き直すことにしました。【報告する文章】の——部アからウのひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。</p>
1 「対象」と解答しているもの(正答)	39.1%												
2 「たい」を「対」と解答しているが、「しょう」を「照」と解答しているもの	4.6%												
3 「対」と解答しているが、「しょう」を「象」、「照」と解答していないもの	19.2%												
4 「たい」を「対」と解答していないが、「しょう」を「象」と解答しているもの	3.2%												
上記以外	26.0%												
無解答	7.9%												
<p>[平均正答率] 市 61.7% 県 69.5% 全国 69.4%</p> <p>[解答類型と反応率(市)]</p> <table border="1"> <tr> <td>「限(らず)」と解答しているもの(正答)</td> <td style="text-align: right;">61.7%</td> </tr> <tr> <td>上記以外</td> <td style="text-align: right;">23.2%</td> </tr> <tr> <td>無解答</td> <td style="text-align: right;">15.1%</td> </tr> </table>	「限(らず)」と解答しているもの(正答)	61.7%	上記以外	23.2%	無解答	15.1%							
「限(らず)」と解答しているもの(正答)	61.7%												
上記以外	23.2%												
無解答	15.1%												

○ 確認する力

〈第5学年及び第6学年〉伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)

ウ 文字に関する事項

(ア) 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

○ 考察

- ・ いずれの問題も「類型以外の誤答」の割合が県や全国に比べて高くなっていることから、部分的に形が異なっている文字や、同じ部分をもつ別の漢字を解答していることが考えられる。また、アの類型2の誤答の中には「対称」も含まれると考えられることや、イの問題においては、無解答の割合も高くなっていることから、文脈の中で同音異義語を使い分けたり、文章に合った適切な漢字を用いたりすることにも課題があると考えられる。
- ・ 指導に当たっては、字形のみを注意して繰り返し練習することを重視するのではなく、本設問のように自分が書いた文章を見直す活動を通して、漢字のもつ意味を考えながら文や文章の中で正しく用いることができるようにしていくことが必要である。また、漢字辞典を用いて、新出漢字の読みや意味などを調べる活動も有効である。

○ 確認する力

〈第5学年及び第6学年〉B 書くこと

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

○ 考察

- ・ 県、全国の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が4割を下回る結果となった。類型3の反応率が4分の1近く見られることから、自分の考えの根拠として、複数の事実を取り上げて書くことに課題があると考えられる。
- ・ 指導に当たっては、調べたことを報告する文章等を書く活動を通して、自分の考えが相手に伝わるように、事実と考えとを区別して書いたり、自分の考えに説得力をもたせられるような事例を取り上げ、理由を明確にしながらまとめたりすることができるようにしていく。また、調べた目的と結果に裏付けされた自分の考えが一致するよう、文章全体の構成を踏まえて書くことも重要である。

〈中学校第3学年〉

市平均正答率が低かった設問

設問2 三 話し合いの流れを踏まえ「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く問題。

場面②

この前、インターネットのニュースを見て、高齢者の中には少しの段差でも歩きづらいつ感じたり、段差に気付かずにはいたりしている方がいることを知りました。文化祭には、毎年、高齢者がたくさんいらっしゃいます。ですから、体育館へ向かう通路などに、「段差に気を付けてください。」と書いた紙を掲示してはどうでしょうか。

倉田さん 西野さん 山下さん

ネットにそのようなニュースが出ているんですね。掲示物で注意を促すのはよいアイデアだと思います。そういうば、校内に「土足禁止」という掲示物がありますが、展示や発表を見に来てくださる方に対する言葉の使い方としては、ふさわしくないと思います。別の表現にしてはどうでしょうか。

そうですね。段差への注意を促す掲示物を作ることにはしよう、「土足禁止」をどのような表現に直すのかについては、話し合えないといけませんね。以前から、私も気になっていました。

場面③

山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん 西野さん 山下さん

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりでと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていないことがあります。

A

2 第一中学校の生徒会役員の山下さんたちは、「遠慮とつながりを大切にしたい文化祭にするために」という議題で話し合っています。次は、「話し合いの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。場面①から場面③は、連続した場面です。

話し合いの一部

〔議題〕
地域とのつながりを大切にしたい文化祭にするために

一 生徒会が地域で行っていることについての展示
・ 高齢者向けの施設での交流会の様子
・ 地域の清掃活動の様子

二 展示や発表を見に来てくださる方への配慮

倉田さん 西野さん 山下さん

「生徒会が地域で行っていることについての展示」はこの二つにします。次は、「展示や発表を見に来てくださる方への配慮」について考えましょう。

三 場面③のAで山下さんは、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを述べようとしています。あなたなら、どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。(略)

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」とは何かを明確にして書くこと。

条件2 条件1で示した「どうするか決まっていないこと」を解決する具体的な案を考えて書くこと。

[正答の条件]

次の条件を満たして解答している。

- ① 話合いの流れを踏まえ「どうするか決まっていな
- ② ①で示した「どうするか決まっていな
- ③ 実際に話すように書いて

[正答例]

- ・校内にある「土足禁止」という掲示物の表現をどのように直すのかについてです。私は、文化祭に来てくださる方に対しては、「ここで靴を脱いでお上がりください。」のように直す
- ・「土足禁止」という表現をどのように直すのかについては、「土足のまま上がることは禁止
- ・校内にある「土足禁止」という掲示物の表現をどのように直すのかが決まってい

[平均正答率] 市 60.1% 県 61.3% 全国 60.4%

[解答類型と反応率(市)]

1 条件①、②、③を満たしているもの(正答)	60.1%
2 条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0%
3 条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	8.1%
4 条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	0.4%
上記以外の解答	24.7%
無解答	6.7%

○ 確認する力

〈第1学年〉 A 話すこと・聞くこと

オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。

○ 考察

- ・全国や県と比較して無答率は低いものの、県や全国の平均正答率を下回り、全体で最も正答率が低い設問となった。解答類型に含まれない解答(上記以外の解答)の割合が県や全国と比べて高く、3つの条件のうち1つのみ、あるいはどの条件も満たさない解答が多かったと考えられる。また、解答類型1～3の反応率の割合から条件①②を満たしていない解答が多かったと推測されることより、話合いの流れを踏まえて自分の考えをまとめることに課題があると考えられる。
- ・指導に当たっては、話し合う相手、目的、内容を理解させた上で、話題や流れに沿った話合いができるようにしていくことが求められる。話合いをさせたままではなく、話題について確認したり、経過を捉えたりすることができるよう、必要に応じて途中で教師が助言を入れることも重要である。このような話合いの基本は小学校の段階でも学習しているが、第1学年の段階で改めて確認できるよう、小学校で学習した相手の発言を受けて自分の考えを発言することや、司会の進め方などを踏まえた指導が求められる。更に、常に自分の考えをもちながら話合いに参加するように指導することも必要となる。話合いの流れを的確に捉えながら、最終的な到達点に向けて自分の考えを具体的にまとめられるよう、記録を取りながら進めていくことも有効である。

設問4 話の一部を除いた表現の説明として適切なものを選択する問題。

4

私たちは、話したり書いたりする際に、「オンターネット」のことを「ネット」というなど、語の一部を省いて表現することがあります。語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

- 1 何の話をしているのかについて互いに分かっている場合には、語の一部を省いた表現の使用で済むことがある。
- 2 どの年代の人にも正確に理解してもらうためには、できるだけ多くの語を、語の一部を省いた表現に直すとよい。
- 3 語の一部を省いた表現が、伝えたいこととは異なる意味で受け取られそうな状況では、その表現を用いない方がよい。
- 4 語の一部を省くことが一般的でない表現の場合でも、語の一部を省いた表現を様々な場面で用いる方がよい。

[平均正答率]
市 78.0% 県 77.2% 全国 78.7%

[解答類型と反応率(市)]

1	1と3と解答(正答)	78.0%
2	1、 1と2、 1と4、 1と2と4 と解答	9.6%
3	3、 2と3、 3と4、 2と3と4 と解答	6.9%
	上記以外の解答	3.5%
	無解答	2.1%

- 確認する力
 〈第1学年〉 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)
 イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
 (ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。
- 考察
 - ・ わずかに全国平均正答率を下回った設問である。全国と比較して、類型2、3の反応率が高いことから、選択肢2か4のいずれかを選択している生徒が多いと考えられる。選択肢2、4は、語の一部を省いた表現を推奨する記述となっている。世代の違いによる言葉の違いがあることや、一般的には用いられないが、特定の職業や分野内でのやり取りでは省略される言葉があることを理解するなど、日常使用している語句だけではなく、事象や行為などを表す語句が多様であることに気付き、どのように活用すればよいか考えていくことに課題があると考えられる。
 - ・ 指導に当たっては、事象や行為などを表す多様な語句を、目的や状況に応じて適切に使えるようにすることが重要になる。例えば、同じ語でも省略して用いられる場合とそうでない場合ではそれぞれどのような理由があるのか、状況がどう違うのかなど、具体的な場面を想定し、それに基づいて考えさせる活動が挙げられる。また、相手の受け取り方を予想したり確かめたりしながら、よりの確に内容を伝えられる表現を用いることができるよう言語活動を通して指導していくことも大切である。

(2) 算数・数学

〈小学校第6学年〉

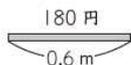
市平均正答率が全国平均より下回った設問より

設問3 (4) 除法の意味を理解しているかどうかをみる問題

(4) ゆいなさんは、下の問題について考えています。

問題

リボンを0.6 m買ったときの代金が180円でした。



このリボン1 m分の代金は、いくらですか。

1 m分の代金は $180 \div 0.6$ の式で求めることができます。

ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。

$$\begin{array}{r}
 180 \div 0.6 = \boxed{} \\
 \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\
 1800 \div 6 = 300
 \end{array}
 \quad \begin{array}{l}
 \curvearrowright \text{変わらない} \\
 \end{array}$$

だから、 $180 \div 0.6$ の答えの $\boxed{}$ は、300です。

$1800 \div 6$ は、何 m 分の代金を求めている式といえますか。

下の **あ** から **え** までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- あ** 0.6 m 分の代金
- い** 1 m 分の代金
- う** 6 m 分の代金
- え** 10 m 分の代金

正答 ・い 1 m 分の代金・・・・・・・・・・・・・・・・ 41.9% (県平均 41.0%、全国平均 47.0%)

誤答 ・あ 0.6 m 分の代金・・・・・・・・・・・・・・・・ 12.7%

・う 6 m 分の代金・・・・・・・・・・・・・・・・ 29.2%

・え 10 m 分の代金・・・・・・・・・・・・・・・・ 15.3%

・上記以外の解答・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.4%

・無解答・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.6%

○ 確認する力

〈第3学年〉D 数量関係

(1) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。

〈第5学年〉A 数と計算

(3) 小数の乗法および除法の意味について理解を深め、それらを用いることができるようにする。

ア 乗法や除法が整数である場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の乗法および除法の意味について理解すること。

イ 小数の乗法および除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。また、あまりの大きさについて理解すること。

ウ 小数の乗法および除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。

○ 考察

- ・ $1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ問題で、本市では正答率が県平均をわずかに上回ったものの、全国平均を 5.1 ポイント下回っている。誤答については、「う 6 m分の代金」を選んでいる児童が 29.2%と多く、被除数と除数を 10 倍した $1800 \div 6$ の式の除数 6 に着目して、6 m分の代金を求めていると誤って捉えていると考えられる。
- ・ 指導に当たっては、計算をする際に、その計算が確実にできるとともに、数を多面的にみることで計算に関して成り立つ性質を活用し、能率的に計算するための工夫を考えさせることが大切である。本設問を用いて、小数の除法を整数の除法に直すときには、除法に関して成り立つ性質が用いられていることを確認した後、 $180 \div 0.6$ と $1800 \div 6$ の式がそれぞれ何を求めている式といえるのかを具体物や図、数直線などを用いて考察する活動が考えられる。その際、まず $180 \div 0.6$ が 1 m分のリボンの代金を求める式であることを確認し、次に、図に示すなどすることで、除数と被除数を 10 倍した $1800 \div 6$ も 1 m分の代金を求めている式といえることを捉えることができるようにする。除法の式と具体的な場面とを関連付ける場を設定することが大切である。

〈中学校第3学年〉

市平均正答率が県、全国平均よりも下回った設問より

設問 1 数の集合と四則計算の可能性について理解しているか見る問題

1 a と b が正の整数のとき、下のアからエまでの計算のうち、計算の結果が正の整数にならないことがあるものはどれですか。正しいものをすべて選びなさい。

ア $a + b$

イ $a - b$

ウ $a \times b$

エ $a \div b$

正答 イ、エ 57.2% (県平均 59.4%、全国平均 62.2%)

誤答 イ 20.5%

エ 5.2%

イ、ウ、エ 1.7%

○ 確認する力

〈第4学年〉A 数と式

(1) 具体的な場面を通して正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。

ア 正の数と負の数の必要性和意味を理解すること。

○ 考察

- ・ aとbが正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ設問である。本市の正答率 (57.2%) は、県正答率 (59.4%)、全国正答率 (62.2%) を下回っている。誤答については、aとbが正の整数のとき、a、bの差だけが正の整数にならないことがあると捉えた生徒が多く、数の集合と四則計算の可能性についての理解に課題があると考えられる。
- ・ 指導に当たっては、四則計算の可能性についての理解のために、具体的な数で計算した結果がどのような数の範囲であるかを確認するなど、計算結果の特徴を捉える活動を重視することが大切である。本設問を用いる場合には、aとb が正の整数のとき、四則計算 $a+b$ 、 $a-b$ 、 $a\times b$ 、 $a\div b$ の結果がいつでも正の整数になるかどうかを考察する活動を取り入れることが考えられる。その際、aとb に代入する整数によって、計算して 得られる結果が正の整数にならない場合があることを見いだすことが必要である。例えば $a=4$ 、 $b=2$ の場合には、四則計算はいつも正の整数となる。しかし、 $a=2$ 、 $b=3$ の場合には、2数の和と積は正の整数になるが、差は負の整数、商は正の数だが整数ではない。このように、aとbに様々な正の整数を代入して四則計算を行い、その結果の特徴を的確に捉えて、計算の可能性について考察する場面を設定することが大切である。

市平均正答率が県、全国平均よりも下回り、無解答率の高い設問より

設問 8 (2) 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかをみる問題

⑧ 図書委員会では、生徒の読書活動の状況を調べ、図書がよりにまとめようと考えています。そこで、図書委員の航平さんと桃子さんは、全校生徒270人を対象に、最近1か月間に読んだ本の冊数と、1日あたりの読書時間が何分であるかを回答するアンケートを実施しました。

アンケートのお願い

・最近1か月間で読んだ本は何冊ですか。 (冊)

・1日あたりの読書時間は何分ですか。 (分)

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 二人は、実施したアンケートをもとに、最近1か月間に読んだ本の冊数について、下のような表にまとめました。下の表において、読んだ本の冊数の最頻値を求めなさい。

最近1か月間に読んだ本の冊数												
読んだ本の冊数(冊)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
人数(人)	13	114	74	30	11	7	4	4	3	4	6	270

(2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

航平さんが作った表			
	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間(分)	26.0	120	0

二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」

桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

正答の条件 次の(a)(c)、または、(b)(c)について記述しているもの。

- (a) 1日あたりの読書時間である26分が、山の頂上の位置にないこと。
 - (b) 1日あたりの読書時間である26分が、度数が最大である階級に含まれていないこと。
 - (c) 1日に26分くらい読書をしている生徒が多いと言えそうだ、という考えは適切でないこと。
- 本市の正答率 37.6%(県平均 38.8%、全国平均 40.8%)

誤答

- ・(b)について度数の大小のみ記述し、(c)について記述しているもの・・・1.0%
- ・(b)について度数の大小のみ記述し、(c)について記述していないもの・・・10.2%
- ・(c)のみを記述しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1.9%
- ・上記以外で、ヒストグラムから読み取れることを記述しているもの・・・4.1%
- ・ヒストグラムについての読み取りを誤って記述しているもの・・・・・・・・2.7%
- ・上記以外・・20.5%
- ・無解答・・22.0%

○ 確認する力

〈第1学年〉D資料の活用

- (1) 目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることが出来るようにする。
 - イ ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえ説明すること。

○ 考察

- ・「1日に26分くらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由をヒストグラムの特徴を基に説明する問題である。本市の正答率(37.6%)は、県平均(38.8%)、全国平均(40.8%)を下回っており、誤答については、「ヒストグラムでは10分以上20分未満の生徒が多いから」と、度数の大小のみについて記述している生徒が10.2%と多かった。このように記述した生徒は、10分以上20分未満の階級の度数が大きいことに着目して記述しているが、1日あたりの読書時間である26分が、度数が最大である階級に含まれていないことを表現することができなかったと考えられる。また、無解答率が22.0%と最も多い設問であり、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられる。
- ・指導に当たっては、代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、批判的に考察し判断できるように指導することが大切である。本設問を用いる場合には、平均値が代表値としてふさわしいかどうかをデータの分布の様子から検討し、判断する場面を設定することが考えられる。「1日に26分くらい読書をしている生徒が多いというのは適切ではない。」ことを説明するには、「1日あたりの読書時間である26分は山の頂上にないので、1日に26分くらい読書をしている生徒が多いというのは適切ではない。」のように、データの分布の特徴を捉えて、説明すべき事柄とその根拠を明確にもって説明できるようにすることが大切である。

(3) 英語

県平均よりも下回った設問

設問 9 (1) 文の中で適切に接続詞を用いることができる力を問う問題。

(1) 次の①, ②について, () 内に入れるのに最も適切な語を, それぞれ 1 から 4 までの中から 1 つ選びなさい。

① Let's play tennis tomorrow () it's sunny.

1 and 2 if 3 but 4 or

正答 - 2 <市正答率 80.3% 県正答率 80.9% 全国正答率 79.9%>

○確認する力

学習指導要領解説 言語活動 エ 書くこと

(ア) 文や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して書くこと。

(イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

○考察

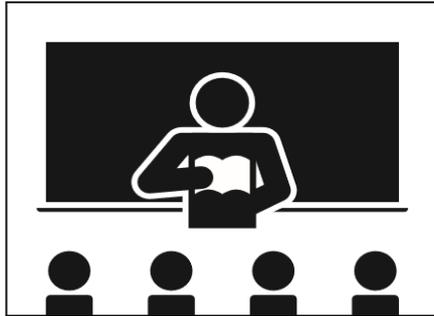
- ・接続詞は、語と語、文と文を結束させ、文章を書く上で重要な役割を果たすものであるが、選択肢 3 (but) を選んだ生徒が 8.7% に上った。文と文などを論理的につなぐ働きをもつ接続詞の使い方を正しく理解させたい。
- ・指導に当たっては、接続詞 if の意味を確認するだけでなく、どのように文の中で用いることができるかを理解させることが大切である。2 つの文の意味を考えた上で、適切な接続詞を用いて 1 つの文を作る活動や、接続詞を使って、主節に続く従属節を書く作文を行う活動等が考えられる。習得までに時間がかかることから、言語活動を通して繰り返し指導していくことが重要である。

市として平均正答率が低かった問題

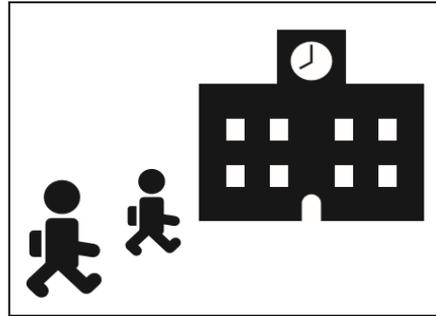
設問 10 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く力を問う問題。

10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。

【 A 】



【 B 】



※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 (, や ? など) は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】

正答例

・ I think A is better. It shows a teacher and students in a classroom, so it looks like a school. I don't think B is good because it looks like a library. (32words)

<市正答率 2.3% 県正答率 1.7% 全国正答率 1.8%>

○確認する力

学習指導要領解説 言語活動 エ 書くこと

(オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

○考察

- ・ 解答類型から、条件①「どちらの案がよいか1つ選んで意見を書く」条件②「選んだ理由等について2つの案に触れながら書く」条件③「25語以上の英語で書く」という3つの条件は満たしているが、正しい語や文法事項等を理解して文章を書くことに課題がある。解答が約40%に上り、コミュニケーションを取る上で支障をきたすような語や文法事項等の誤りが多い結果となった。
- ・ 与えられたテーマについてまとまりのある文章を書く際には、テーマについて自分の考えを整理し、どのように書けば読み手に伝わるかを考えながら書き表す必要がある。指導に当たっては、自分の考えをもつことができるようにすることや、語や文法事項等を正しく理解して書き表すことができるように指導することが必要である。

- 文章の構成（自分の主張→主張を支える根拠や具体例）を意識して、書く活動を行うことも大切である。
- 書く指導に当たっては、I や You 以外の主語を用いて書く指導を行うことで、伝える内容の幅を広げたり、主語の数に応じて動詞の形を変化させる活動を取り入れたりすることで、文や文構造を正しく活用する必要性のある言語活動を充実させたい。

無解答率の高かった問題

設問 4 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる力を問う問題。

4 (放送問題)

英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

<放送文>

Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

正答例

- You can try the judo club.
- Why don't you join the music club?

<市正答率 11.4% 県正答率 8.8% 全国正答率 7.6%>

<市無解答率 38.8% 県無解答率 41.3% 全国無解答率 42.3%>

○確認する力

学習指導要領解説 言語活動 ア 聞くこと

(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。

○分析・考察

- ・解答類型によると、「部活動についてのアドバイスをするという趣旨から外れ、メッセージの内容を理解できていない」と考えられる解答が 32.4%であった。(例：アドバイスが不適切であるもの You should study Japanese hard. / 自分のことを書いているもの I play tennis every day.) 聞いた内容を理解できていない、または自分の考えを表現するに至らない状況であることが原因として考えられる。また、自分の考えを示すために必要な表現が身に付いていない、文構造上の誤りがある解答が 13.3%に上った。(例：動詞が欠落している I soccer. など)
- ・指導に当たっては、「聞くこと」の活動を充実させるために、クラスルームイングリッシュを充実させ、1回で要点や概要を聞き取ることができるよう、学習方法を工夫することが考えられる。また、質問や依頼、提案などを聞いて理解し、理解したことに対して適切な応答をするなどの活動を繰り返し行っていくことも必要である。

設問 8

書かれた内容に対して自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意向などを捉える力を問う問題。

8 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai!* We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

(注) the World Food Programme: 世界食糧計画 (国際連合の事業)
project: 事業 waste: ~を無駄にする rice ball: おにぎり
not only ~, but also ...: ~だけでなく, ...も

正答例

- We should not but too much food.
- If I can't eat everything, I can share it with others.

＜市正答率 16.8% 県正答率 10.6% 全国正答率 10.9%＞
＜市無解答率 22.6% 県無解答率 28.1% 全国無解答率 27.9%＞

○確認する力

学習指導要領解説 言語活動 ウ 読むこと

(オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

○考察

- 文法などの誤りがあっても、考えを伝える上で大きな支障がなければ正答となる設問であるが、問いと同様の内容を繰り返したり、単に感想を述べたりする誤答が見られる。食糧を無駄にすることをやめるために、自分ができていることを書くという問題の趣旨を踏まえていない解答も 40%に上った。また、自分の考えを示すために必要な表現が身に付いていない、語順やつづりの誤り、動詞の欠落や重複など、考えを伝える上で大きな支障となる語や文法上の誤りが見られる解答も約 20%に上った。
- 指導に当たっては、日頃から読んだことの内容理解に留まらず、理解した内容を踏まえて、自分はどうか考えるか、ペアやグループなどで意見交換をしたり、尋ね合ったりする授業を提案したい。

3 学習状況調査（児童・生徒質問紙）の分析結果

(1) 基本的な生活習慣

全ての質問事項において、肯定的な回答の割合が昨年度よりも高い結果となった。また、全国の結果と比較しても、本市の児童生徒は全国と比較して基本的な生活習慣が定着していることが確認できる。一方で、昨年同様、起床時刻に比べ就寝時刻が不規則な傾向が見られた。

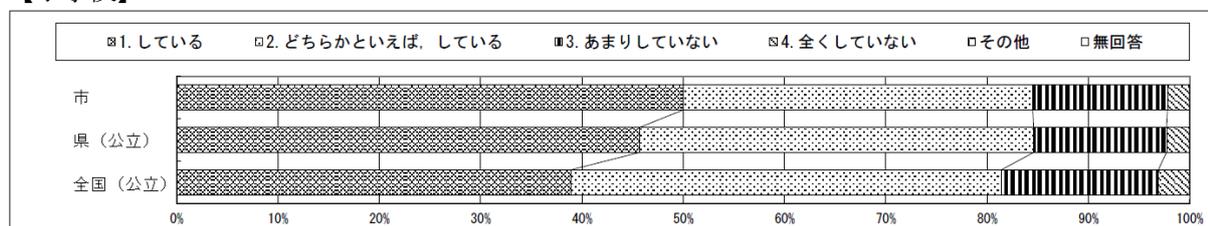
今後も就寝時刻の定着を意識しながら、規則正しい生活習慣の大切さを児童生徒に指導するとともに、家庭にも引き続き啓発を行い、現在の好ましい生活習慣を継続させていくことが望まれる。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(1)	朝食を毎日食べていますか	97.7	95.3	95.0	93.1
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	84.5	81.4	79.9	78.0
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	94.6	91.6	95.6	92.8

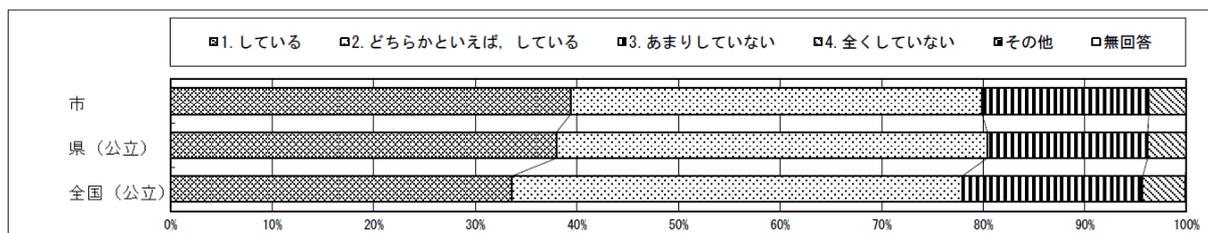
※ 数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

【小学校】



【中学校】



(2) 学習習慣

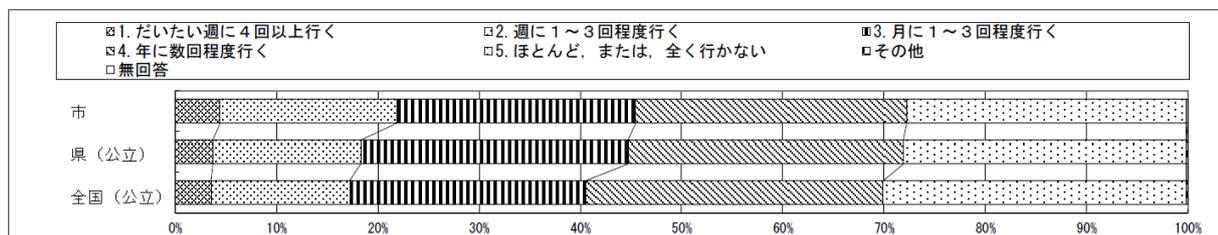
学校の授業時間以外に平日1日当たり1時間以上勉強している割合は、昨年度と比較して、小学生は6.5ポイント、中学生は0.5ポイント増加しており、学習習慣が定着している児童生徒が増えてきている。一方で、1日当たり30分以上読書をしている児童生徒の割合は全国を上回ったものの、昨年度と比較して、小学校で5.4ポイント、中学校で5.5ポイント下回った。また、中学校の図書館の利用機会や読書への興味関心に関する項目が全国の割合を下回った。今後は、家庭での学習時間を確保しつつ、家庭と連携しながら読書活動の充実を図っていくことで読書に親しむ態度を育んでいくことが重要である。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	78.0	71.5	51.5	50.4
(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） ※1時間以上と回答した割合	78.4	66.1	81.1	69.8
(19)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） ※30分以上と回答した割合	46.1	39.8	28.4	27.0
(20)	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか ※上段:週に1回以上 下段:月に1回以上と回答した割合	21.9	17.2	6.1	8.3
		45.5	40.5	18.8	20.4
(21)	読書は好きですか	77.2	75.0	67.2	68.0
(22)	新聞を読んでいますか	23.8	19.0	16.8	12.7

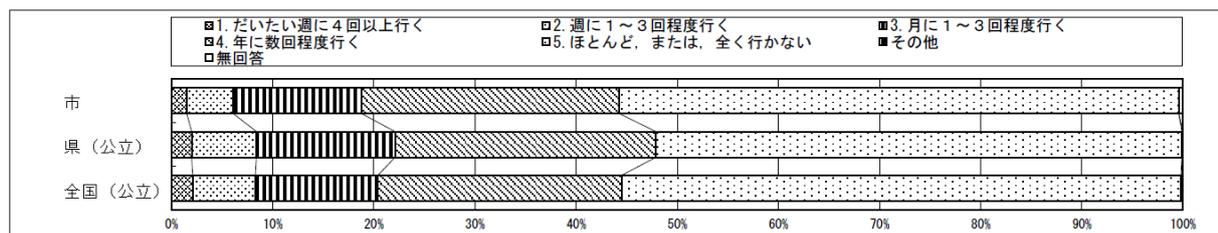
※ (17) (21) (22) の数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

(20) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

【小学校】



【中学校】



(3) 国語科に関する内容

国語科に関する内容については、小・中学校とも全ての質問事項において肯定的な回答の割合が全国よりも上回った。国語の学習への関心が高く、既習事項を普段の生活や授業の中で活用できている児童生徒が多いことが確認できた。また、「授業内容がよく分かる」の項目では、小学校では9割近く、中学校においても8割程度が肯定的な回答をしていることから、質の高い授業が国語への意欲の向上につながっていると考えられる。

今後も児童生徒にとって分かりやすい授業を心掛け、読書活動との関連を意識しながら授業改善に取り組んでいくことが望まれる。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(37) (40)	国語の勉強は好きですか	75.4	64.2	64.7	61.7
(38) (41)	国語の勉強は大切だと思いますか	95.4	93.0	93.9	91.0
(39) (42)	国語の授業の内容はよく分かりますか	89.9	84.9	83.0	77.6
(40) (43)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	94.4	91.2	92.1	88.0
(41) (44)	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	83.3	76.9	78.0	71.6
(42) (45)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	84.6	78.1	84.6	77.4
(43) (46)	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	75.8	68.5	71.8	64.4
(44) (47)	国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	76.3	71.4	77.0	68.4
(45) (48)	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたか	86.1	80.4	85.5	79.8

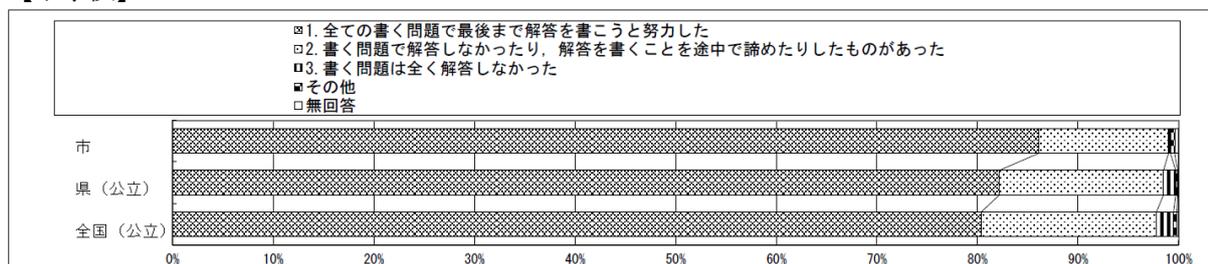
※「最後まで書こうと努力した」と回答した割合

※ 質問番号の上段は小学校、下段は中学校

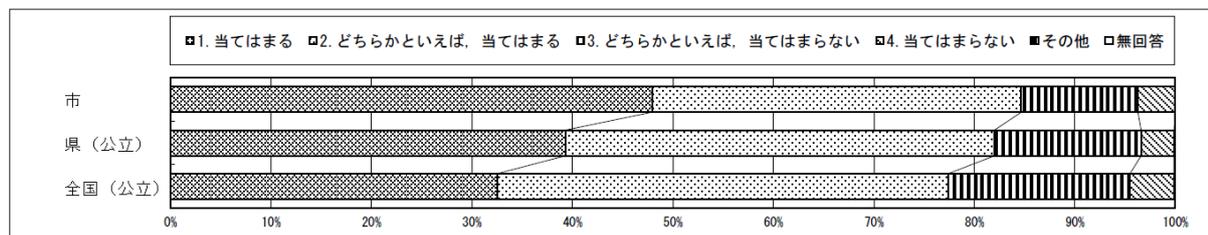
※ 小(37)～(44)中(40)～(47)の数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(45) (48) 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたか、どのように解答しましたか

【小学校】



【中学校】



(4) 算数・数学科に関する内容

算数・数学科に関する内容については、小学校では全ての事項で、中学校ではほとんどの事項において肯定的な回答の割合が全国よりも上回った。国語と比較すると「好き」と回答した割合は下がるものの、多くの児童生徒が、算数・数学の学習の重要性、必要性を感じていることが確認できる。また、「授業内容がよく分かる」の項目では、小・中学校ともに8割程度が肯定的な回答をしている。小学校においては、解答方法を工夫したり、ノートの中の自分の考えを書いたりする習慣が定着していることが確認できた。一方で、中学校の質問事項(56)の回答状況から、学年が進むにつれ個人差が大きくなってきていることが考えられる。

今後、基礎基本の確実な定着を図るとともに、小・中学校間のつながりを意識しながら授業改善に取り組んでいくことが望まれる。

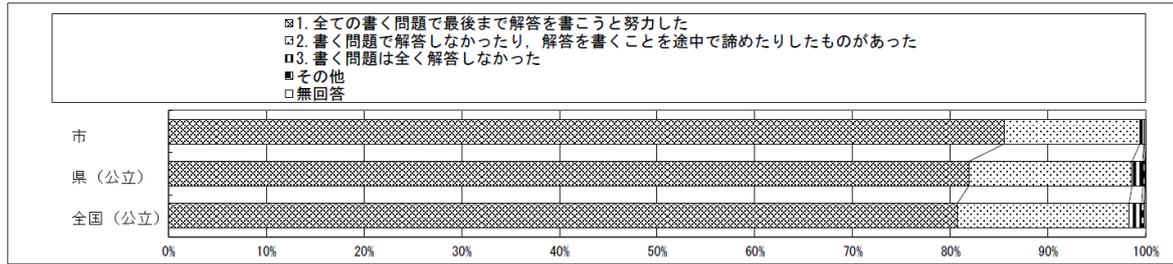
質問 番号	質 問 事 項 ※ () は中学校	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(46) (49)	算数 (数学) の勉強は好きですか	69.7	68.6	63.5	57.9
(47) (50)	算数 (数学) の勉強は大切だと思いますか	95.3	93.7	86.3	84.2
(48) (51)	算数 (数学) の授業の内容はよく分かりますか	84.7	83.5	79.2	73.9
(49) (52)	算数 (数学) の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	96.1	92.5	78.7	76.2
(50)	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	81.1	76.5		
(51)	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	79.2	79.1		
(52)	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	83.9	82.0		
(53)	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	84.7	82.1		
(54)	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	86.9	84.0		
(55)	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	92.7	87.0		
(56) (53)	今回の算数 (数学) の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか ※ 「最後まで書こうと努力した」と回答した割合	85.5	80.7	60.6	60.8

※ 質問番号の上段は小学校、下段は中学校

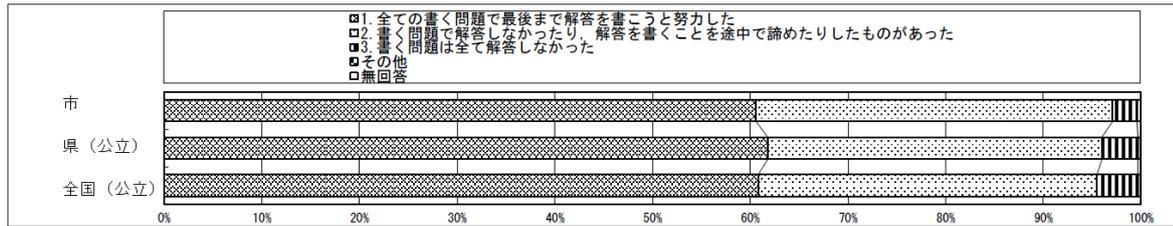
※ 小(46)～(55)中(49)～(52)の数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(56) (53) 今回の算数(数学)の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか

【小学校】



【中学校】



(5) 自己有用感

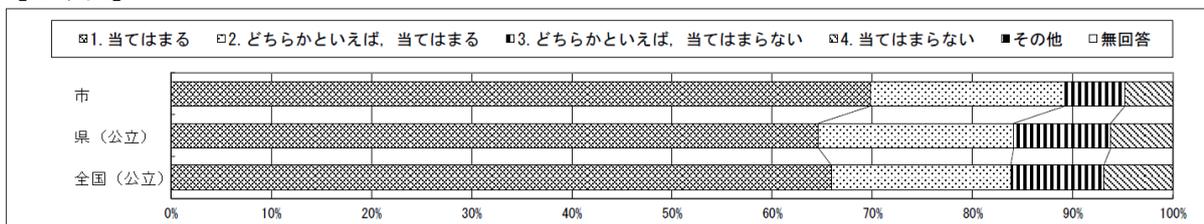
小・中学校ともに、全ての質問事項において肯定的な回答の割合が全国よりも高い結果となった。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目が高い数値を示していることから、教師の関わりが自尊心の高まりにつながっていると考えられる。今後も、児童生徒一人一人のよさを認め、伸ばしていく指導を継続していくとともに、児童生徒の自己実現に向けたキャリア教育等の充実に努めたい。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(5)	自分には、よいところがあると思いますか	87.5	81.2	77.8	74.1
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	94.4	86.1	85.1	81.5
(8)	将来の夢や目標を持っていますか	89.2	83.8	74.7	70.5

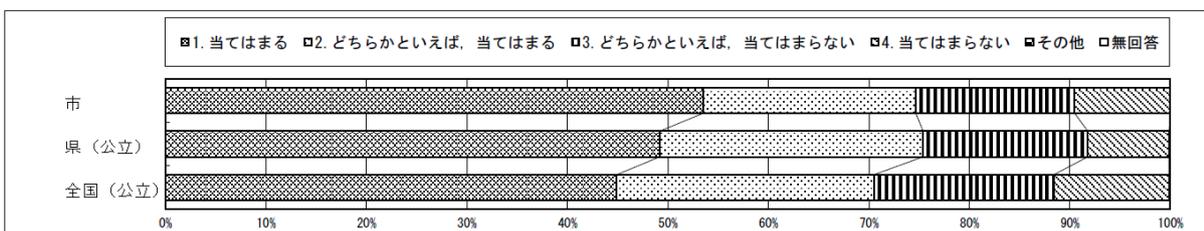
※ 数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(8) 将来の夢や目標を持っていますか

【小学校】



【中学校】



(6) 規範意識

小・中学校ともに、全ての質問事項において肯定的な回答の割合が全国と同程度か上回る結果となった。本市の児童生徒は、高い規範意識をもって学校生活を送っていることが確認できた。特に、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目が高い結果となっていることから、思いやりのある集団づくりがなされていることがうかがえる。

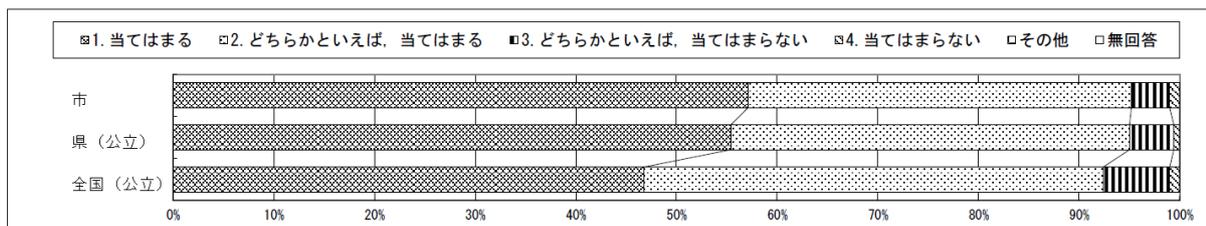
今後も、規律ある学校生活を維持していくとともに、家庭や地域との連携を図りながら規範意識の向上や倫理観の育成に努めたい。

質問 番号	質 問 事 項 ※ () は中学校	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(13)	学校のきまり(規則)を守っていますか	95.2	92.3	96.3	96.2
(14)	人が困っているときは、進んで助けていますか	93.2	87.9	89.0	85.9
(15)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.1	97.1	95.8	95.1

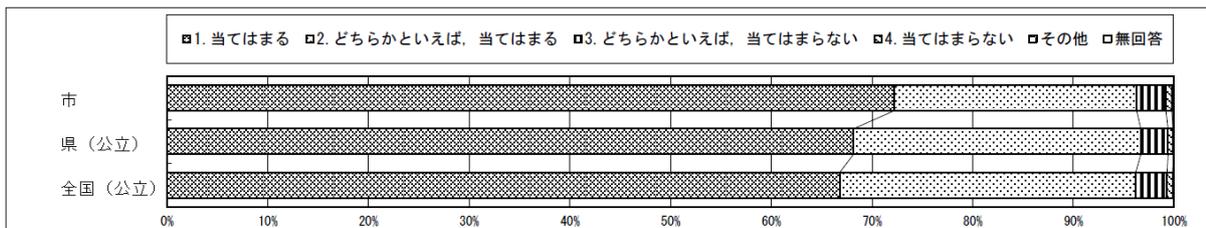
※ 数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(13) 学校のきまり(規則)を守っていますか

【小学校】



【中学校】



(7) 地域や社会に関わる活動

小・中学校ともに、全ての質問事項において肯定的な回答の割合が全国の結果と同程度か上回る結果となった。小学校では、生活科や社会科、外国語活動等で自分の住む地域について学ぶ機会があることから、地域への関心が高い傾向にあると考えられる。一方で、中学校になると、全国の結果と同様に地域への関心が低下する傾向が見られた。

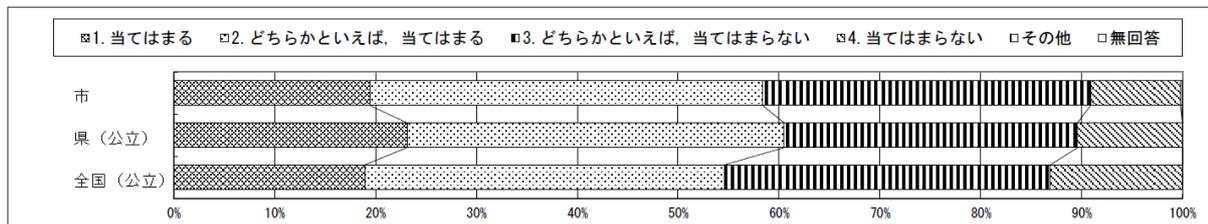
今後は、「下野市ふるさと学習」を中心に、小・中学校9年間を通して地域・社会への関心を高めていく指導に努めたい。

質問番号	質問事項 ※()は中学校	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(23)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	75.0	68.0	51.3	50.6
(24)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	58.3	54.5	39.4	39.4
(25)	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	72.3	68.6	62.9	62.4
(26)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	83.4	76.1	61.0	59.3

※ 数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(24) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

【小学校】



【中学校】

